

訪日客受け入れ準備着々

北関東の観光地

新型コロナウイルス禍で中断していた外国人観光客の受け入れが10日から始まる。日本有数の観光地を抱える北関東からもインバウンドへの視線は熱く、栃木と群馬では広域連携のサイクリングツアーを開発。茨城ではマリリンレジャーで集客を狙う。巨大市場への門がつついに開かれたが、もともと少なかつた北関東のインバウンド需要を読み切れない表情もある。

「訪日客の動きは早い。前後から新規やリピーターと想像していたが、思ったより客からの問い合わせが増え、すでに数件予約が決まった。」

同社では添乗員付きのライドツアーを企画して、スペリエンズ(同県那須塩原市)の山本徹也社長は話す。日本が外国人観光客の受け入れを表明す



栃木と群馬を結ぶ外国人向けバイクツアーの開発が進む(21年に実施したモニターツアー)

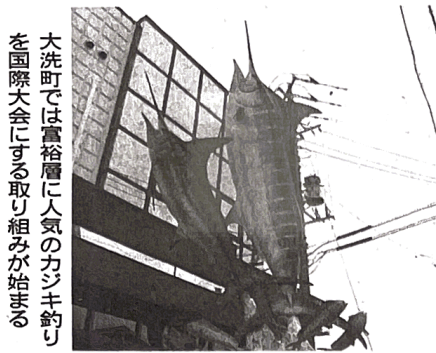
ツアー企画や情報発信

需要拡大期待には温度差

県内を巡るツアーまでさまさま。滞在日数も5〜10日程度で、数年ぶりに来日するリピーターもいるという。「コロナ禍で富裕層のサイクリングツアーは増えており、市場はこれまで以上に拡大しそうだ」(山本社長)という。

コロナ禍での2年超、観光事業者の間ではインバウンド再開に向けた動きが水面下で進んでいる。その一つが関東運輸

局の事業のもと群馬県みなかみ町と栃木県の日光市、那須塩原市、那須町エリアの観光事業者や観光協会などが企画した広域連携のツアー開発だ。



大洗町では富裕層に人気のカジキ釣り。国際大会にする取り組みが始まる

茨城県はインバウンド再開を見据え、8月に大洗町でカジキ釣りの世界大会を国内で初めて開催する。カジキ釣りは小型船のオーナーなどの富裕層を中心に人気なマリ

ンレジャーの一つで、ハワイやメキシコなどでは釣ったカジキの大きさや量を競う大会に飲食やステイイベントを併設した大会が開催され、客を集めている。

22年の大会では海外からの5人の選手を招へいする予定だ。選手はビジネス枠での入国とするため、本格的なインバウンド需要の喚起につながる。23年以降とみている。

「Nikko Yamabushi Bike Tour」(日光山伏バイクツアー)と銘打ち、修験道文化が残る同エリアを自転車で巡りつつ、栃木から群馬に連なる山伏文化に触れてもらうというもの。ターゲットはオーストラリアの富裕層で、那須、日光からみながみに連なる山道を数日

間かけて自転車で行く。本格的なライドツアーだ。2021年には釧路のライドツアーファンらを引き、ツアーの試験も実施した。

茨城県はインバウンド再開を見据え、8月に大洗町でカジキ釣りの世界大会を国内で初めて開催する。カジキ釣りは小型船のオーナーなどの富裕層を中心に人気なマリ

ンレジャーの一つで、ハワイやメキシコなどでは釣ったカジキの大きさや量を競う大会に飲食やステイイベントを併設した大会が開催され、客を集めている。

22年の大会では海外からの5人の選手を招へいする予定だ。選手はビジネス枠での入国とするため、本格的なインバウンド需要の喚起につながる。23年以降とみている。

茨城経協会長に常陽銀・笹島氏

茨城経協は9日、定時総会を開き、常陽銀行会長の笹島律夫氏が会長に就任すると発表された。2年間会長を務めた寺門氏は名誉会長に就任し、笹島氏は名誉会長に就任する。笹島氏は「経営者も社会の変化を見据えて自らを改革していく必要がある」と話し、デジタル化や脱炭素などのテーマでも支援を続ける考えを示した。

飲食店や宿泊施設などの観光業関係者にピーガオンやベジタリアンについての理解を深めてもらい、訪日客のニーズに幅広く応えるためのオンライン講演会の開催も予定している。宮地アンガス社長は「外国人観光客に対して必要以上に身構えず、一緒に楽しもうという気持ちで新しいことに挑戦すべきだ」と訴える。

一方で、観光事業者にとつてこれまで少なかつた訪日客への期待感には温度差もある。観光庁の資料によると、19年の訪日客のうち北関東3県を訪れたのは合わせて3%弱。渋川伊香保温泉観光協会(群馬県渋川市)は「(受け入れ再開に向けて)インバウンド客が一気に増えるかと言われたら、それはどうかはわからない」と話す。

この数年、茨城経協は会員企業のデジタル化や人材確保の支援を趣旨とする「パートナーシップ構築宣言」を公表するなど、参加企業の支援を充実させている。

笹島氏は「経営者も社会の変化を見据えて自らを改革していく必要がある」と話し、デジタル化や脱炭素などのテーマでも支援を続ける考えを示した。

み客数の割合は全体の5%程度だった。「今までの同じくコロナ対策を万全にしてお迎えしたい」と(同協会)とし、外国語のパンフレットの見直しなどに取り組む方針。

北関東の旅協関係者からは訪日客の前にGotoキャンペーンの再開を求め、国内客が戻りきらないなかでの訪日客再開に戸惑いも隠せない。

半導体関連を収益源に

長井精機 装置部品の新工場

発電用や産業用タービンブレード製造を手掛ける長井精機(群馬県高崎市)は、半導体製造装置の部品製造のための新工場を建設した。供給

品加工自体は2021年10月から始めており、すでに1社に納入しているという。

長井精機社長は「タービンブレード製造は受注数に波がある」と話し、収益の安定を図るために

も別分野への参入を考えたという。22年5月の売上高はタービンブレードが大半の9割を占めるが、半導体関連は1割に達し、伸びている。

長井社長は「今後2〜3年で(半導体関連の売)り上げを全体の2割くらいにしたい」と語る。同社はチタンやステンレスなどの難削材加工を得意としている。

納税の逸品

9900万円に成長した。ジュエリーの返礼品は受け入れ総額の77%を占める。

術

甲府の業者がもはや黒子に徹してはられない事情もある。バブル期の

新工場を建設した。供給品加工自体は2021年10月から始めており、すでに1社に納入しているという。

長井精機社長は「タービンブレード製造は受注数に波がある」と話し、収益の安定を図るために

も別分野への参入を考えたという。22年5月の売上高はタービンブレードが大半の9割を占めるが、半導体関連は1割に達し、伸びている。

長井社長は「今後2〜3年で(半導体関連の売)り上げを全体の2割くらいにしたい」と語る。同社はチタンやステンレスなどの難削材加工を得意としている。

も別分野への参入を考えたという。22年5月の売上高はタービンブレードが大半の9割を占めるが、半導体関連は1割に達し、伸びている。

長井社長は「今後2〜3年で(半導体関連の売)り上げを全体の2割くらいにしたい」と語る。同社はチタンやステンレスなどの難削材加工を得意としている。